

大地の生い立ち・美濃加茂⑥

東海湖に堆積した砂礫層

今から約四百万年ほど前の人類の祖先が誕生した時代、美濃加茂は東海湖の北東端に位置していました。そこには古木曾川が流れ込んで、大量の砂礫さらきが運搬されていました。

その砂礫層は、前平の丘陵地、下米田山本の丘陵地、可児市南部の丘陵地、鬼岩の山頂部、久田見高原などのゆるやかな山地に残っており、瀬戸層群とよばれています。砂礫層は礫まで風化した、いわゆる「くさり礫層」です。多治見や瀬戸の陶土層も東海湖の初期の堆積物にな



東海湖の広がり（牧野内1985より）



瀬戸層群の砂礫層（美濃加茂市前平）

ります。陶土層はおもに花崗岩かこうがんが風化した泥できています。

地層の存在は、太古に河川や湖、また海があつた証拠になります。その地層や化石は大地の生い立ちの謎を解く重要な鍵を持っています。

（博物館建設委員・鹿野勘次）

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

（平成五年十一月分）

○昭和初期のカメラ、古い写真など 約九十点

（林君子さん／太田町）

市社会教育課博物館建設係（内線二六二）まで情報をお寄せください。